

領域「こころとからだのしくみ」

領域の目的

1. 介護実践に必要な根拠となる、心身の構造や機能及び発達段階とその課題について理解し、対象者の生活を支援するという観点から、身体的・心理的・社会的側面を統合的に捉えるための知識を身につける。
2. 認知症や障害のある人の生活を支えるという観点から、医療職と連携し支援を行うための、心身の機能及び関連する障害や疾病の基礎的な知識を身につける。
3. 認知症や障害のある人の心身の機能が生活に及ぼす影響について理解し、本人と家族が地域で自立した生活を継続するために必要とされる心理・社会的な支援について基礎的な知識を身につける。

授業科目	発達と老化の理解			授業形態	講義	単位数	2単位
担当者	宮地康子						
ナンバリング	W21L225	開講時期	前期	授業時間数	30時間	授業回数	15回
必修・選択	介護福祉士国家試験受験資格：必修			実務経験のある教員による授業科目		該当する	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	テキストや配布資料を用いて、人間の成長・発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解する。また、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を習得する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 人間の成長と発達の基本的な考え方をふまえ、ライフサイクルの各期における身体的・心理的・社会的特徴と発達課題及び特徴的な疾患について説明できる。 老化に伴う身体的・心理的・社会的変化や高齢者に多くみられる疾患と生活への影響、健康の維持・増進を含めた生活を支援するための基礎的な知識を説明できる。 「コミュニケーション能力」(1)「人間や人間の生活、社会についての知識・理解」能力を身につける。 						
授業計画	第1回	テーマ	人間の成長と発達の基礎的理解①（成長）				
		内容	人間の成長の考え方や原則、影響する要因について学ぶ。				
		授業時間外学修	予習：シラバスを熟読し、授業全体のイメージを膨らませておく。 保育士養成課程で学んだ「成長」について振り返り、テキストの関連部分（指示）を読んでくる。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。				
	第2回	テーマ	人間の成長と発達の基礎的理解②（発達）				
		内容	人間の発達の考え方や原則、影響する要因について学ぶ。				
	第3回	授業時間外学修	予習：保育士養成課程で学んだ「発達」について振り返りテキストの関連部分（指示）を読んでくる。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。				
		テーマ	人間の発達段階の理解(ライフサイクルの各期の基礎的理解①)				
	第4回	内容	発達段階について学ぶ。				
		授業時間外学修	予習：保育士養成課程で学んだ「発達段階」を振り返りテキストの関連部分（指示）を読んでくる。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。				
	第4回	テーマ	人間の発達課題の理解(ライフサイクルの各期の基礎的理解②)				
		内容	身体的・心理・社会的機能の発達について学ぶ。				

回	授業時間外 学修	予習：保育士養成課程で学んだ「発達課題」を振り返りテキストの関連部分（指示）を読んでくる。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
第 5 回	テーマ	老年期の特徴と発達課題①
	内 容	老年期の定義（老化とは）について学ぶ。
	授業時間外 学修	予習：テキストの関連部分（指示）を読んでくる。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
第 6 回	テーマ	老年期の特徴と発達課題②
	内 容	老年期の発達課題について学ぶ。
	授業時間外 学修	予習：テキストの関連部分（指示）を読んでくる。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
第 7 回	テーマ	老化に伴うこころとからだの変化と生活①
	内 容	老化に伴う身体的変化と生活への影響について学ぶ。
	授業時間外 学修	予習：テキストの関連部分（指示）を読んでくる。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
第 8 回	テーマ	老化に伴うこころとからだの変化と生活②
	内 容	老化に伴う心理的变化と生活への影響について学ぶ。
	授業時間外 学修	予習：テキストの関連部分（指示）を読んでくる。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
第 9 回	テーマ	老化に伴うこころとからだの変化と生活③
	内 容	老化に伴う社会的変化と生活への影響について学ぶ。
	授業時間外 学修	予習：テキストの関連部分（指示）を読んでくる。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
第 10 回	テーマ	高齢者と健康①
	内 容	健康長寿に向けての健康について学ぶ。
	授業時間外 学修	予習：テキストの関連部分（指示）を読んでくる。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
第 11 回	テーマ	高齢者と健康②
	内 容	高齢者の症状の特徴について学ぶ。
	授業時間外 学修	予習：テキストの関連部分（指示）を読んでくる。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
第 12 回	テーマ	高齢者と健康③
	内容	高齢者の疾患の特徴について学ぶ。
	授業時間外 学修	予習：テキストの関連部分（指示）を読んでくる。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
第 13 回	テーマ	高齢者と健康④
	内 容	高齢者の症状や疾患の特徴を踏まえ、生活の留意点について学ぶ。
	授業時間外 学修	予習：テキストの関連部分（指示）を読んでくる。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。

	第 14 回	テーマ	高齢者と健康⑤
		内 容	保健医療職との連携を学ぶ。
		授業時間外 学修	予習：テキストの関連部分（指示）を読んてくる。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
	第 15 回	テーマ	まとめ
		内 容	これまでの授業を振り返り、今後の学習へつながるようまとめを行う。
		授業時間外 学修	予習：これまでの授業を振り返り、理解不足の点を整理してくる。 復習：後期の学びに向けた学習課題を整理しておく。
第 16 回		定期試験	
教科書・テキスト	介護福祉士養成講座「発達と老化の理解」（中央法規出版） 適宜資料を配布する。		
参考書・参考資料等	介護福祉士国家試験対策全巻（中央法規出版）		
成績評価の 方法・基準	定期試験と授業内容の理解を確認するプリントにより、領域「こころとからだのしくみ」に関する理解の程度(60%) 「コミュニケーション能力」(1)獲得の程度(25%) 授業参加度(15%)で評価する。		
課題に対する フィードバックの方法	定期試験については、採点后講評を行う。		
授業時間外学修	予習(各授業回 30 分) 復習(各授業回 30 分)として、授業計画で示した内容を実施する。 介護福祉士国家試験対策学習(1 日 90 分)		
備 考	実務経験のある教員による授業科目である。 担当教員は、病院、介護老人福祉施設で9年間、看護師として従事した実務経験を持つ。 その経験を踏まえ、具体的事例を交えて理解できるようサポートする。		
連絡先（質問等）	オフィス・アワー 月曜日 12 時 25 分～12 時 50 分 対面での質問・回答を優先したいため適宜応じる。		

授業科目	認知症の理解 (前期)		授業形態	講義	単位数	4単位		
担当者	松田水月、宮地康子、荒木隆俊							
ナンバリング	W22L226	開講時期	前期・後期	授業時間数	60時間	授業回数	30回	
必修・選択	介護福祉士国家試験受験資格:必修			実務経験のある教員による授業科目		該当する		
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						○	
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。							
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○	
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。							
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。							
授業の概要・方法	テキストと配布資料を用いて、認知症に関する基礎知識を習得するとともに、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を養う。							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の基礎知識、特性を理解し、本人または家族を含めた介護を展開できる基本的な支援方法を説明できる。 ・医学的・心理的側面から、認知症の原因となる疾患及び段階に応じた心身の変化や心理症状を理解し、生活支援を行うための根拠となる知識を理解し説明できる。 ・認知症の人の生活及び家族や社会との関りへの影響を理解し、その人の特性を踏まえたアセスメントを行い、本人主体の理念に基づいた認知症ケアの実践につながることを説明できる。 ・認知症の人の生活を地域で支えるサポート体制や、多職種連携・協働による支援の基礎的な知識を理解し説明できる。 ・認知症の人を支える家族の課題について理解し、家族の受容段階や介護力に応じた支援を説明できる。 ・「コミュニケーション能力」(1)「人間や人間の生活、社会についての知識・理解」能力を身につける。 							
授業計画	第1回	テーマ	認知症を取り巻く状況①				(担当 荒木)	
		内容	認知症の定義や、歴史的背景、理念を学ぶ。					
		授業時間外学修	予習：シラバスを熟読し、授業のイメージを膨らませる。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。					
	第2回	テーマ	認知症を取り巻く状況②				(担当 荒木)	
		内容	認知症を取り巻く社会的環境をグループワークにより理解する。					
	第3回	授業時間外学修	予習：高齢者と関わった体験を振り返り、高齢者の特徴や認知症についての理解を整理する。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。					
		テーマ	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解①				(担当 宮地)	
		内容	脳のしくみを理解し、認知症の原因となる疾患について理解する。					
	回	授業時間外	予習：脳をスケッチし、それぞれの部位ごとの働きを整理する。					

	学修	復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
第4回	テーマ	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解② (担当 宮地)
	内容	認知症の原因となる疾患について理解を深める。
	授業時間外学修	予習：認知症の段階に応じた心身の変化について整理する。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
第5回	テーマ	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解③ (担当 宮地)
	内容	認知症の原因となる疾患及び段階に応じた心身の変化や心理症状を理解し、グループディスカッションを通して生活支援の根拠・知識を理解する。
	授業時間外学修	予習：認知症の原因となる疾患及び段階に応じた心身の変化や心理症状を整理する。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
第6回	テーマ	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解④ 課題① (担当 宮地)
	内容	認知症の原因となる疾患及び段階に応じた心身の変化や心理症状を理解し、グループディスカッションを通して生活支援の根拠・知識を理解する。
	授業時間外学修	予習：身体の変化や心理症状を理解し、生活支援の根拠・知識を整理する。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
第7回	テーマ	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア① (担当 松田水)
	内容	中核症状を理解し、それによる生活障害をグループディスカッションで話し合い理解する。
	授業時間外学修	予習：認知症における中核症状について整理する。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
第8回	テーマ	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア② (担当 松田水)
	内容	認知症における「BPSD」を理解し、それによる生活障害をグループディスカッションで話し合い理解する。
	授業時間外学修	予習：BPSDを理解し、その対応について整理する。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
第9回	テーマ	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア③ (担当 松田水)
	内容	認知症の各原因疾患について理解を深めるとともに、その診断方法について学ぶ。
	授業時間外学修	予習：認知症の診断方法についてどういったものがあるか整理する。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
第10回	テーマ	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア④ (担当 松田水)
	内容	認知症の各原因疾患について理解を深めるとともに、認知症治療薬、認知症予防について学ぶ。
	授業時間外学修	予習：疾患それぞれの治療薬、予防法などについて整理する。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
第11回	テーマ	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア⑤ (担当 松田水)
	内容	認知症の人の生活および家族や社会との関りへの影響を理解し、その特性を踏まえたアセスメントについて学ぶ。
	授業時間外学修	予習：実習で体験した事例を通して、認知症の方の特性を整理しアセスメントを行

	学修	い整理する。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
第 12 回	テーマ	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア⑥ (担当 松田水)
	内容	認知症の方本人主体の理念に基づいた認知症ケアの実践について、グループディスカッションを通して学ぶ。
	授業時間外 学修	予習：本人主体のケアとは何か整理する。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
第 13 回	テーマ	認知症と間違われやすい症状① (担当 宮地)
	内 容	認知症の症状を再度整理し、間違われやすい疾患について学ぶ。
	授業時間外 学修	予習：認知症状を表す症状にはどのようなものがあるか、整理する。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
第 14 回	テーマ	認知症と間違われやすい症状② (担当 宮地)
	内 容	認知症と間違われやすい症状について学ぶ。
	授業時間外 学修	予習：認知症と間違われやすい行動等について整理する。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
第 15 回	テーマ	まとめ 課題② (担当 松田水)
	内 容	前期を振り返り、認知症における介護福祉士の役割をディスカッションし学ぶ。
	授業時間外 学修	予習： 既習内容を振り返り、課題点、理解不足の点を整理する。 復習： 授業内容を見直し、要点をプリントにまとめる。
	第 16 回	定期試験
教科書・テキスト	介護福祉士養成講座「認知症の理解」(中央法規出版) 適宜資料を配布する。	
参考書・参考資料等	介護福祉士養成講座全巻(中央法規出版)	
成績評価の 方法・基準	定期試験と授業内容の理解を確認するプリントにより、領域「こころとからだのしくみ」に関する理解の程度(60%)、「コミュニケーション能力」(1)獲得の程度(25%)授業参加度(15%)で評価する。	
課題に対する フィードバックの方法	定期試験については、採点后講評を行う。	
授業時間外学修	予習(各授業回30分) 復習(各授業回30分)として、授業計画で示した内容を実施する。 介護福祉士国家試験対策学習(1日90分)	
備 考	実務経験のある教員による授業科目である。 担当教員の松田(水)は、病院、公的機関で9年間看護師、保健師として従事した実務経験を持つ。 担当教員の宮地は、病院、介護老人福祉施設福祉で9年間看護師として従事した実務経験を持つ。 担当教員の荒木は、介護老人福祉施設で介護福祉士として11年間従事した実務経験を持つ。 その経験を踏まえ、具体的な事例を交えて理解できるようサポートする。	
連絡先(質問等)	オフィス・アワー 月曜日12時25分～12時50分 対面での質問・回答を優先しているため適宜応じる。	

授業科目	認知症の理解 (後期)		授業形態	講義	単位数	4 単位	
担当者	松田水月、宮地康子、荒木隆俊						
ナンバリング	W22L226	開講時期	前期・後期	授業時間数	— 時間	授業回数	— 回
必修・選択	介護福祉士国家試験受験資格:必修			実務経験のある教員による授業科目		該当する	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	テキストと配布資料を用いて、認知症に関する基礎知識を習得するとともに、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を養う。						
到達目標	・「学び続け、成長し続ける能力」(1)「自分の実践を目指して主体的に学ぶことができる」能力を身につける。						
授業計画	第17回	テーマ	障害を抱えて生きることへの支援① (担当 宮地)				
		内容	前期に学んだことを踏襲し、認知症の人のこれまでとこれからどのような支援が必要かグループディスカッションを通して学ぶ。				
		授業時間外学修	予習：認知症の段階に応じた支援法について整理しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。				
	第18回	テーマ	障害を抱えて生きることへの支援② (担当 宮地)				
		内容	認知症ケアの理念と視点、また、認知症当事者の視点について考え、グループディスカッションを通し学ぶ。				
	授業時間外学修	予習：認知症についての理解したうえで、自分が認知症当事者だったらどう生活しどんな心理状態になるか整理しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。					
	第19回	テーマ	パーソン・センタード・ケア (担当 松田水)				
		内容	認知症の理解をより深め、パーソン・センタード・ケアの意味と重要性を学ぶ。				
	授業時間外学修	予習：パーソン・センタード・ケアとは何か調べ整理しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。					
	第20回	テーマ	アセスメントツール (担当 松田水)				
		内容	認知症の理解と認知症の人の特性を踏まえたアセスメントツールについて学ぶ。				
	授業時間外学修	予習：実習の体験を振り返り、介護過程も踏まえ認知症の人のアセスメントの留意点は何が重要であったかを整理しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。					
第21回	テーマ	認知症の人とのコミュニケーション (担当 荒木)					
	内容	コミュニケーション技術を踏まえ、認知症の人のコミュニケーション技術として重					

	回		要とされるものを考え、その支援法の理解を深める。
	授業時間外 学修		予習：認知症の人へのコミュニケーション技術の留意点について整理しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
第 22 回	テーマ		認知症の人へのケア (担当 宮地)
	内容		認知症の進行に応じた介護等、実習で事例をもとにグループワークを通して生活支援の根拠・知識を理解する。
	授業時間外 学修		予習：認知症の進行状況を確認し、生活支援の根拠・知識を整理しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
第 23 回	テーマ		認知症の人へのさまざまなアプローチ (担当 宮地)
	内容		認知症により考えられる、中核症状、BPSD 等症状と、対象者の生活背景等を考えアプローチ法を学ぶ。
	授業時間外 学修		予習：実習で出会った認知症の方へのアプローチ法について、整理しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
第 24 回	テーマ		認知症の人の終末期医療とケア① (担当 松田水)
	内容		認知症の終末期医療について学ぶ。
	授業時間外 学修		予習：認知症の進行における段階的な症状を再確認する。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
第 25 回	テーマ		認知症の人の終末期医療とケア② (担当 松田水)
	内容		認知症の方の終末期ケアにはどのようなケアが必要か学ぶ。
	授業時間外 学修		予習：終末期医療について整理しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
第 26 回	テーマ		健康づくり (担当 松田水)
	内容		認知症の症状と環境との関係について、どのような環境が適しているかを学ぶ。
	授業時間外 学修		予習：認知症の方に影響を与えると思われる「環境」について、多方面から整理しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
第 27 回	テーマ		家族への支援① (担当 荒木)
	内容		グループワークを通じて介護者自身の体験等を実体験や想像し、家族へのレスパイトケアについて学ぶ。
	授業時間外 学修		予習：レスパイトケアとは具体的にどういったものか整理しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
第 28 回	テーマ		家族への支援② (担当 荒木)
	内容		家族のエンパワメント、家族会と介護教室などについて学ぶ。
	授業時間外 学修		予習：エンパワメントの基本や、家族の力の動かし方について整理しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
第 29 回	テーマ		連携と協働① (担当 荒木)
	内容		認知症の方の支援のための連携と協働の視点を理解し、多職種連携と協働の意味を学ぶ。
	授業時間外		予習：実習で感じた介護者の思いや心身の状態を考え、何が必要か整理しておく。

	学修	復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。	
	第30回	テーマ	連携と協働② (担当 荒木)
		内 容	具体的にどういった連携と協働の視点が重要かを学ぶ。
		授業時間外学修	予習：介護者の支援について、具体的にどういったものがあるか事前に調べておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
	第31回	テーマ	まとめ (担当 松田水・宮地・荒木)
		内 容	これまでの授業を振り返り、認知症に対応できる介護福祉士に求められる役割と、各自の課題を明らかにする。
		授業時間外学修	予習：これまでの授業を振り返り、理解不足の点を整理しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
第32回	定期試験		
教科書・テキスト	介護福祉士養成講座「認知症の理解」(中央法規出版) 適宜資料を配布する。		
参考書・参考資料等	介護福祉士養成講座全巻(中央法規出版)		
成績評価の方法・基準	定期試験と授業内容の理解を確認するプリントにより、領域「こころとからだのしくみ」に関する理解の程度(60%)、「学び続け、成長し続ける能力」(1)獲得の程度(25%)授業参加度(15%)で評価する。		
課題に対するフィードバックの方法	定期試験については、採点后採点后講評を行う。		
授業時間外学修	予習(各授業回30分) 復習(各授業回30分)として、授業計画で示した内容を実施する。 介護福祉士国家試験対策学習(1日90分)		
備 考	実務経験のある教員による授業科目である。 担当教員の松田(水)は、病院、公的機関で9年間看護師、保健師として従事した実務経験を持つ。 担当教員の宮地は、病院、介護老人福祉施設で9年間看護師として従事した実務経験を持つ。 担当教員の荒木は、介護老人福祉施設で介護福祉士として11年間従事した実務経験を持つ。 その経験を活かして、具体的な事例を交えて理解できるようサポートする。		
連絡先(質問等)	オフィス・アワー 月曜日12時25分～12時50分 対面での質問・回答を優先しているため適宜応じる。		

授業科目	障害の理解		授業形態	講義	単位数	2単位	
担当者	伊藤和雄						
ナンバリング	W22L227	開講時期	後期	授業時間数	30時間	授業回数	15回
必修・選択	介護福祉士国家試験受験資格:必修			実務経験のある教員による授業科目		該当する	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得するとともに、障害のある人の体験を理解し、本人のみならず、家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を理解したい。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者福祉の動向を説明できる。 ・障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得させ、本人、家族を含めた介護のあり方についてアセスメントを行い、介護の展開を説明できる。 ・障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援を説明できる。 ・「コミュニケーション能力」(1)「人間や人間の生活、社会についての知識・理解」能力を身につける。 						
授業計画	第1回	テーマ	障害の基礎的理解①				
		内容	障害の概念、障害者福祉の基本理念を理解する。				
		授業時間外学修	予習：シラバスを熟読し、授業のイメージを膨らませる。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。				
	第2回	テーマ	障害の基礎的理解②				
		内容	障害者福祉に関連する制度を理解する。				
	第3回	授業時間外学修	予習：テキストの関連部分(指示)を読む。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。				
		テーマ	障害の基礎的理解③				
	第4回	内容	障害のある人の心理的影響を理解する。				
		授業時間外学修	予習：テキストの関連部分(指示)を読む。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。				
	第5回	テーマ	障害の医学的、心理的側面の基礎知識① (心理的側面を中心にして)				
		内容	肢体不自由(運動機能障害)を理解する。				
	第5回	授業時間外学修	予習：テキストの関連部分(指示)を読む。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。				
		テーマ	障害の医学的、心理的側面の基礎知識② (心理的側面を中心にして)				
	第5回	内容	重複障害を理解する。				
		授業時間外学修	予習：テキストの関連部分(指示)を読む。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。				

第 6 回	テーマ	障害の医学的、心理的側面の基礎知識③（心理的側面を中心にして）
	内 容	内部障害(心臓機能障害、腎臓機能障害、呼吸機能障害、膀胱・直腸障害、小腸機能障害、ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害)
	授業時間外 学修	予習：テキストの関連部分(指示)を読む。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
第 7 回	テーマ	障害の医学的、心理的側面の基礎知識④（心理的側面を中心にして）
	内 容	重症心身障害を理解する。
	授業時間外 学修	予習：テキストの関連部分(指示)を読む。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
第 8 回	テーマ	障害の医学的、心理的側面の基礎知識⑤（心理的側面を中心にして）
	内 容	知的障害、精神障害を理解する。
	授業時間外 学修	予習：テキストの関連部分(指示)を読む。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
第 9 回	テーマ	障害の医学的、心理的側面の基礎知識⑥（心理的側面を中心にして）
	内 容	高次機能障害を理解する。
	授業時間外 学修	予習：テキストの関連部分(指示)を読む。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
第 10 回	テーマ	障害の医学的、心理的側面の基礎知識⑦（心理的側面を中心にして）
	内 容	難病、発達障害を理解する。
	授業時間外 学修	予習：テキストの関連部分(指示)を読む。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
第 11 回	テーマ	障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援①
	内 容	障害受容と適応機制を理解する。
	授業時間外 学修	予習：テキストの関連部分(指示)を読む。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
第 12 回	テーマ	障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援②
	内 容	住生活、住宅改修について理解する。
	授業時間外 学修	予習：テキストの関連部分(指示)を読む。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
第 13 回	テーマ	連携と協働
	内 容	地域のサポート体制、チームアプローチを理解する。
	授業時間外 学修	予習：テキストの関連部分(指示)を読む。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
第 14 回	テーマ	家族への支援
	内 容	家族への支援とは何か、家族の介護力評価と介護負担の軽減を理解する。
	授業時間外 学修	予習：テキストの関連部分(指示)を読む。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
第 15 回	テーマ	まとめ
	内 容	これまでの授業の振り返り、ワークシートを用いまとめを行う。

	回	授業時間外 学修	予習：既習内容を振り返り、疑問点、理解不足の点をまとめる。 復習：疑問点、理解不足の点について既習内容を確認する。
		第 16 回	定期試験
教科書・テキスト	介護福祉養成講座「障害の理解」（中央法規出版） 適宜資料を配付する。		
参考書・参考資料等	「介護福祉士養成講座全巻」（中央法規出版） 「介護福祉士国試ナビ」（中央法規出版）		
成績評価の 方法・基準	筆記試験と提出してもらった課題レポートにより、領域「こころとからだのしくみ」に関する理解の程度（60%）、「コミュニケーション能力」（1）獲得の程度（25%）、授業参加度（15%）で評価する。		
課題に対する フィードバックの方法	定期試験については、採点后講評する。		
授業時間外学修	予習（各授業回 30 分） 復習（各授業回 30 分）として、授業計画で示した内容を実施する。 介護福祉士国家試験対策学習（1 日 90 分）		
備 考	実務経験のある教員による授業科目である。 担当教員は、介護老人福祉施設で 26 年間介護業務、相談援助業務、介護計画作成等に従事した実務経験を持つ。 その経験を踏まえ、具体的事例を交えて理解できるようサポートする。		
連絡先（質問等）	オフィス・アワー 火曜日 12 時 25 分～12 時 50 分 対面での質問・回答を優先したいので適宜応じる。		

授業科目	こころとからだのしくみ I		授業形態	講義	単位数	2 単位	
担当者	松田水月						
ナンバリング	W21L228	開講時期	前期	授業時間数	30 時間	授業回数	15 回
必修・選択	介護福祉士国家試験受験資格:必修			実務経験のある教員による授業科目		該当する	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	テキストと配布資料を用いて、介護実習等で習得した介護技術の根拠となる人体の構造や機能および、介護サービスの提供時における安全への留意点や心理的側面での配慮について理解を深める。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・こころとからだの連携性を説明できる。 ・介護実践に必要な観察力、判断力の基盤となる人間の心理、人体の構造と機能の基礎的な知識を理解する。 ・生活支援を行う際に必要となる基礎的な知識として、生活支援の場面に応じた、こころとからだのしくみ及び機能低下や障害が生活に及ぼす影響について理解する。 ・ターミナルケアの視点を説明できる。 ・人体の構造や機能を理解したうえで適切な介護サービスを提供できる基本的な視点を説明できる。 ・「コミュニケーション能力」(1)「人間や人間の生活、社会についての知識・理解」能力を身につける。 						
授業計画	第1回	テーマ	「健康」とは何か				
		内容	「健康」の定義や、その背景、理念、健康観を知る。				
		授業時間外学修	予習：シラバスを熟読し、授業のイメージを膨らませる。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。				
	第2回	テーマ	こころとからだのしくみ I こころのしくみの理解①				
		内容	人間の心理の中の、基本的欲求、社会的欲求についてグループディスカッションを通して学ぶ。				
		授業時間外学修	予習：人間の欲求について自分の体験や、友人家族などから聞き取り等を行い整理しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。				
	第3回	テーマ	こころとからだのしくみ I こころのしくみの理解②				
		内容	自己実現の尊厳と、こころのしくみの基礎について学ぶ。				
		授業時間外学修	予習：生活の中で自己実現が必要なもの、またそれを得るにはどうしたらいいか整理しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。				
	第	テーマ	こころとからだのしくみ I からだのしくみの理解①				

4 回	内 容	脳や心臓など基本的な解剖や整理を理解する。
	授業時間外 学修	予習：心臓をスケッチし、循環について整理しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
第 5 回	テーマ	こころとからだのしくみⅠ からだのしくみの理解②
	内 容	骨・関節などからからだの動きのメカニズムを理解する。
第 6 回	授業時間外 学修	予習：骨・関節・筋力・神経系についての働きについて整理しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
	テーマ	こころとからだのしくみⅡ 移動に関連したこころとからだのしくみ
第 7 回	内 容	移動のしくみ、心身の機能低下が及ぼす影響、変化の城と対応について理解を深める。
	授業時間外 学修	予習：身体の変化や老化に伴う心理症状を理解し、生活支援の根拠・知識を整理しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
第 8 回	テーマ	こころとからだのしくみⅡ 身じたくに関連したこころとからだのしくみ
	内 容	生活の中で行われている身じたくに関する、こころとからだの基本項目について学ぶ。
第 9 回	授業時間外 学修	予習：身じたくに関連するからだのしくみについて整理しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
	テーマ	こころとからだのしくみⅡ 食事に関連したこころとからだのしくみ
第 10 回	内 容	食事のしくみについて理解し、心身の機能低下が食事に影響を及ぼす影響について学ぶ。
	授業時間外 学修	予習：食事について変化の気づきと、その対応について整理しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
第 11 回	テーマ	こころとからだのしくみⅡ 入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ
	内 容	入浴・清潔がもたらす心身の効果についての理解と、汚れが皮膚に及ぼす影響と清潔保持の必要性を理解する。
第 12 回	授業時間外 学修	予習：心身機能が生活保持に及ぼす影響について整理しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
	テーマ	こころとからだのしくみⅡ 排泄に関連したこころとからだのしくみ
第 13 回	内 容	排泄に必要な行為、排便と排尿のしくみを理解する。
	授業時間外 学修	予習：排尿と排便の正常と異常について整理しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
第 14 回	テーマ	こころとからだのしくみⅡ 休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ
	内 容	睡眠を引き起こす仕組みを理解し、睡眠の環境条件や生活習慣を学ぶ。
第 15 回	授業時間外 学修	予習：良質な睡眠をとるために必要なことについて調べ、考察し整理しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
	テーマ	こころとからだのしくみⅡ 人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ①
第 16 回	内 容	終末期の捉え方を学び、看取りでの尊厳の保持の意味を学ぶ。

	授業時間外学修	予習：自分の死の在り方や、尊厳死についての自分の考えを整理しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
第13回	テーマ	こころとからだのしくみⅡ 人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ②
	内容	終末期から「死」までの身体機能の特徴について学ぶ。また、臨終期から死後のからだの変化を理解し、その対応について学ぶ。
	授業時間外学修	予習：終末期・臨終期における介護福祉士の支援について整理しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
第14回	テーマ	こころとからだのしくみⅡ 人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ③
	内容	「死」に関する心の理解と、医療職との連携のポイントについて学ぶ
	授業時間外学修	予習：「キューブーラロス」について調べ、看取りに対する自分の考えを整理しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
第15回	テーマ	まとめ
	内容	前期を振り返り、こころとからだⅠにおける介護福祉士の役割をディスカッションし学ぶ。
	授業時間外学修	予習：既習内容を振り返り、課題点、理解不足の点を整理しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
	第16回	定期試験
教科書・テキスト	介護福祉士養成講座「こころとからだのしくみ」（中央法規出版） 適宜資料を配布する。	
参考書・参考資料等	介護福祉士養成講座全巻（中央法規出版）	
成績評価の方法・基準	定期試験と授業内容の理解を確認するプリントにより、領域「こころとからだのしくみ」に関する理解の程度（60%）、「コミュニケーション能力」（1）獲得の程度（25%）授業参加度（15%）で評価する。	
課題に対するフィードバックの方法	定期試験については、採点后講評を行う。	
授業時間外学修	予習（各授業回30分） 復習（各授業回30分）として、授業計画で示した内容を実施する。 介護福祉士国家試験対策学習（1日90分）	
備考	実務経験のある教員による授業科目である。 担当教員は、病院、公的機関で9年間、看護師、保健師として従事した実施経験を持つ。 その経験を踏まえ、具体的な事例を交えて理解できるようサポートする。	
連絡先（質問等）	オフィス・アワー 月曜日12時25分～12時50分 対面での質問・回答を優先しているため適宜応じる。	

授業科目	こころとからだのしくみⅡ		授業形態	講義	単位数	2単位	
担当者	松田水月						
ナンバリング	W22L229	開講時期	後期	授業時間数	30時間	授業回数	15回
必修・選択	介護福祉士国家試験受験資格:必修			実務経験のある教員による授業科目		該当する	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	テキストと配布資料を用いて、介護実習等で習得した介護技術の根拠となる人体の構造や機能および、介護サービスの提供時における安全への留意点や心理的側面での配慮について理解を深める。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する。 ・人生の最終段階にある人と家族を支援するため、終末期の心身の変化が生活に及ぼす影響について学び、生活支援を行うために必要となる基礎的な知識を理解する。 ・「学び続け、成長し続ける能力」(1)「自分の実践について振り返り、より良い実践を目指して、主体的に学ぶことができる」能力を身につける。 						
授業計画	第1回	テーマ	介護福祉士にとって医療・看護とは				
		内容	「健康」の定義や、その背景、理念、健康観を知る。				
		授業時間外学修	予習：シラバスを熟読し、授業のイメージを膨らませる。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。				
	第2回	テーマ	人体構造と機能・疾患①				
		内容	脳や心臓などの基本的な解剖や生理を理解する。				
		授業時間外学修	予習：前期に行った脳・心臓の解剖生理再度確認しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。				
	第3回	テーマ	人体構造と機能・疾患②				
		内容	骨・関節などからだの動きのメカニズムを理解する。				
		授業時間外学修	予習：教科書演習「全身の骨格」「血液成分」を確認しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。				
	第4回	テーマ	人体構造と機能・疾患③				
		内容	骨や関節、筋肉（骨格筋）の役割、平衡性・敏捷性について理解する。				
		授業時間外学修	予習：高齢になり骨や関節、筋肉が衰えてくるとどのようなことが考えられるか、そのリスクと対応について整理しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。				
	第5回	テーマ	現代社会と疾病①				
		内容	脳・神経系の疾病とメカニズムを理解する。				

第6回	回	授業時間外学修	予習：脳・神経系の解剖生理を整理しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
	テーマ	現代社会と疾病②	
	内容	循環器系・呼吸器系の疾病とメカニズムを理解する。	
第7回	授業時間外学修	予習：循環器系・呼吸器系の解剖生理をレポートに整理しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。	
	テーマ	現代社会と疾病③	
	内容	運動器系の疾病とメカニズムを理解する。	
第8回	授業時間外学修	予習：運動器系の解剖生理をレポートに整理しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。	
	テーマ	現代社会と疾病④	
	内容	消化器系の疾病とメカニズムを理解する。	
第9回	授業時間外学修	予習：消化器系の解剖生理をレポートに整理しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。	
	テーマ	現代社会と疾病⑤	
	内容	泌尿器・生殖器・内分泌系の疾病とメカニズムを理解する。	
第10回	授業時間外学修	予習：泌尿器・生殖器・内分泌系の解剖生理をレポートに整理しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。	
	テーマ	リハビリテーション医療	
	内容	高齢者のリハビリテーション医療の現状を学ぶ。	
第11回	授業時間外学修	予習：リハビリテーションとは何か整理しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。	
	テーマ	在宅医療の現状	
	内容	現代医療における在宅医療の現状を学ぶ。	
第12回	授業時間外学修	予習：在宅医療とは何か整理しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。	
	テーマ	保険・医療システムの現状	
	内容	高齢者の保険・医療システムの現状について学ぶ。	
第13回	授業時間外学修	予習：介護保険・老人保健等高齢者に関わる制度について整理しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。	
	テーマ	こころとからだのしくみⅡ 人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ⑤	
	内容	「死」を理解する。	
第14回	授業時間外学修	予習：今自分で考える「死」について小レポートに整理しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。	
	テーマ	こころとからだのしくみⅡ 人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ⑥	
	内容	終末期から「死」までの変化と特徴と「死」に対するこころの理解	
	授業時間外学修	予習：終末期の身体の変化について調べ整理しておく。	

	学修	復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
	テーマ	まとめ
	第15回 内 容	これまでの授業を振り返り、こころとからだの理解を深めることと介護福祉士としての役割についての関係性の深さを理解する。
	授業時間外 学修	予習：既習内容を振り返り、課題点、理解不足の点を整理しておく。 復習：授業内容の要点をプリントにまとめる。
	第16回	定期試験
教科書・テキスト	介護福祉士養成講座「こころとからだのしくみ」（中央法規出版） 適宜資料を配布する。	
参考書・参考資料等	介護福祉士養成講座全巻（中央法規出版）	
成績評価の方法・基準	定期試験と授業内容の理解を確認するプリントにより、領域「こころとからだのしくみ」に関する理解の程度（60%）、「学び続け、成長し続ける能力」（1）獲得の程度（25%）授業参加度（15%）で評価する。	
課題に対するフィードバックの方法	定期試験については、採点后講評を行う。	
授業時間外学修	予習（各授業回30分） 復習（各授業回30分）として、授業計画で示した内容を実施する。 介護福祉士国家試験対策学習（1日90分）	
備 考	実務経験のある教員による授業科目である。 担当教員は、病院、公的機関で9年間看護師、保健師として従事した実施経験を持つ。 その経験を踏まえ、具体的な事例を交えて理解できるようサポートする。	
連絡先（質問等）	オフィス・アワー 月曜日12時25分～12時50分 対面での質問・回答を優先しているため適宜応じる。	